



ご長寿おめでとうございます。 これからもお元気で！

高齢者敬老祝い事業

市内在宅最高齢者の奥島さとへさんは現在105歳、お元気でご家族と出後にお住まいです。

9月9日、市長の祝いの訪問に、花束を高く掲げて受け取りました。奥島さんは73歳から習い始めたという短歌を現在も続け、突然の市長の所望に「長々と一年を重ねて 今もなお 健康一番と 日を重ね居り」と応え、今なお張りのある元気な声で自作の歌を詠み上げました。

9月17日敬老の日には、市長と副市長が市内の老人福祉施設を訪問し、高齢者の皆さんを激励しました。

市部の特別養護老人ホーム「彩四季」を訪れた内保副市長は「笑顔は自分だけでなく周りの人も幸せにします。

今年はまだまだ暑い日が続きますが、笑顔を忘れずにお一人おひとり体に気をつけて、さらに元気にお暮らしてください。」とあいさつすると、会場からは「ありがとう」の声と拍手がおこりました。



お祝い品の贈呈では、伊賀市男子最高齢者の104歳、奥中敬一さんが伊賀市男子最高齢者認定証を副市長から手渡されると「皆さんのおかげです。さらに記録を伸ばしたいです。ありがとう」と力強く応えてくれました。

この後、アトラクションとして地元のコーラスグループや獅子舞があり、入所者の皆さんは敬老の日のひとときを楽しみました。



実際に体験することの大切さ！

救急のつどい

9月6日、救急医療について理解を深めてもらおうと「救急の集い」を行い、伊賀市老人クラブ連合会などからおよそ100人が参加しました。この集いは9月9日の「救急の日」にあわせて伊賀市と伊賀医師会の共催で2年に1度行っています。

伊賀医師会救急担当理事でアクアクリニック伊賀院長の藤森健次さんは、救急医療の進歩と課題について講演し、119番通報が病院へのタクシー代わりに使われることがあるといった問題点などを提示しました。

実技や体験のコーナーでは転倒危険度のチェックや寝たきりの方の床ずれを予防するための寝かせ方などの実演が行われました。

その後は、三角巾での止血法体験コーナー、人工呼吸や胸部圧迫の体験コーナー、119番通報体験コーナー、AED（自動体外式除細動器）の使い方を学べるコーナーなどに分け、順番に体験しました。

参加者からは「普段から必要性は感じていたが、実際にやってみて改めて大切さがわかった」「こういう機会があれば、また参加したいです」などの感想がありました。



まちかどTopics